



## 平成27年度 自然学校の受入れを終えて

平成27年度に本校で自然学校を実施した小学校は、4月27日から12月4日までに55グループ76校ありました。今年度の活動を振り返るために、利用校からの実施報告書をもとに課題や改善点等をまとめ、来年度に向けて準備を進めています。

実施報告書の中で、「今回の自然学校での成果や全体的な感想」を記入してもらっています。そこには、様々な活動の成果が報告されていたので、紹介します。来年度の自然学校の参考にさせていただきたいと思います。



・班だけでなく、クラスや学年といった集団の中で、児童が互いに声をかけ合ったり、貸し合ったりしながら、協力して活動に取り組むことができた。また、様々な体験を通して南但馬の自然や地域の歴史に触れ合い、子ども達なりに郷土の持つ尊さやありがたさを感じることができた。天候にも左右されながらのプログラムとなったが、ほぼ予定通りのプログラムが実行でき、児童達も有意義に自然学校を過ごす事ができた。

・歩く活動を多く組み、体力的に厳しいプログラムにしたが、苦しくなったときに自分勝手な行動をしたり投げ出したりすることの多かった子どもたちが自分たちでお互いに声を掛け合い、乗り越えていく姿を多く見せてくれたことが良かった。

・普段の学校生活ではできない体験をさせていただき、大変充実した4泊5日となった。その中でも、竹田城跡登山は、仲間との絆を深めるための良い手立てとなった。しんどいときに、周りの友達に声かけができ、また自分に打ち勝つという経験をする事ができた。日常生活においても集団で行動する大変さや大切さ、時間をきちんと守るなど、今後学校生活で生かせるような経験をする事ができた。大変なプログラムをこなす中、児童たちも充実感、達成感を味わっているだろう。



・雲海が見られる時期ということで早朝登山を計画したが、予想以上の景色に児童も感動した様子でした。子ども達が口を揃えて「きれいだった」「すごかった」と感想を述べるほどで、貴重な体験をする事ができた。また、ご飯の二度炊きも初めての経験を繋げながらカレー作りができたので実りの多いプログラムであった。



・全員が大きくなげがもなく、無事帰校できたことが一番大きな成果であった。自然の中で自分のがんばりや友だちの良さに気づくことができた児童がとて多かったように思う。班の友だちと協力することの大切さを感じていた児童も多かつ

た。また、普段身の回りのことをしてくれている家の人への感謝の気持ちをもつこともできていたように思う。

・普段の学校生活では、体験できない活動に参加することにより、児童は多くのことが学ぶことができた。家族と離れての生活は家族への感謝の気持ちや家族の良さを改めて感じさせるものであった。また、逆算して時間通りに行動することの難しさや、グループで協力することの大切さも知った。5日間という短い期間であっても、寝食をともにした他校の友達やリーダーとの心のつながりを実感し、別れに涙する子どもたちの姿に人間としての心の成長を感じることができた。



・子どもたちは、班を基本としてともに行動することを心がけており、日ごとに協力の形が見られた。普段は自分勝手な面も出てしまうことが多いが、それを我慢して、お互いの意見を聞き合ったり、励まし合ったりする姿が見られた。また、「瞬間」を大切にしようと、友だちの良い場面に気づく目を養うことで関わりが深まった。また、いろんな気付きをまとめ、掲示することで、見つけたことを言葉で表現し、自分の成長が友だちや学年の成長に繋がることが実感できた。



・「自分たちで考え、行動する自然学校」として児童にとっては学校では得られない経験ができたと思います。まだ力の足りない部分もありましたが、キャンプファイヤーでは、自分たちの成長を感じ、涙する児童が多くいました。帰ってきてからの児童の行動に変化が見え始めてきました。

・実行委員を立ち上げて、子ども達のリーダー性や主体性を高めることを目標に取り組んだ。その結果、やらされるのではなく、「自分たちでやっていくんだ」という積極的な姿勢が見られた。また、1週間を通して、天候にも恵まれて、子ども達にとって、思い出に残る自然学校になったと思う。

・自分たちで時計を見て、次の活動を考え、準備する。大人になるにつれてできるようになってほしいことではあるが、なかなか学校生活だけではできない部分がある。それを5日間を通して指導し、声をかけ続け、ようやくできる兆しが見えるところまでこぎつけることができた。

・子どもたちが自分自身で考え、判断し、行動することができた。プログラムを通してグループで協力し、活動することができた。その経験によって、仲間との絆の深まりや力を合わせることの良さを感じることができた。



(実施報告書から学校名を入れずに抜粋しています。なお、文章は原文のまま用いていますが、文章と写真の学校は、一致していません)

#### 編集後記

子どもたちの様々な頑張りが報告されました。また、来年もこのようなたくさんの頑張りが報告されることを願って、今回の「指導課だより」を作成しました。

(文責 主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣)